

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年1月14日

協議会名: 長野県公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	山田温泉線	高山村が村民に対してお得な回数券を提供するとともに、須坂市が時刻表を作成するなど、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.9 に対して 実績輸送量31.2であった。	村内循環コミュニティバスとの一体運用を軸に、より効率的なダイヤを検討していく。また、近隣市町村で導入済みのICシステムとの連携の可能性を探っていく。
	上林線	利用促進を図るため、電車の時刻改正に合わせて、ダイヤ改正を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:21.8 に対して 実績輸送量22.9であった。	朝夕の通勤・通学、昼間の買い物への移動手段としての需要を多く取り込むため、より必要とされる時間帯に運行ができるように、協議会等において、ルート・ダイヤを検討していく。
	須賀川線	利用促進を図るため、電車の時刻改正に合わせて、ダイヤ改正を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:17.7 に対して 実績輸送量16.3であった。	朝夕の通勤・通学、昼間の買い物への移動手段としての需要を多く取り込むため、より必要とされる時間帯に運行ができるように、協議会等において、ルート・ダイヤを検討していく。
	永田線	通学における需要は多いが、昼間の利用者数は少ないので、沿線市町村の協議会とともにダイヤ編成の検討を行っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:27.3 に対して 実績輸送量25.1であった。	朝夕の通勤・通学、昼間の買い物への移動手段としての需要を多く取り込むため、より必要とされる時間帯に運行ができるように、協議会等において、ルート・ダイヤを検討していく。
	屋島線	利用促進を図るため、ダイヤ改正を行い旅客の利便向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:22.9 に対して 実績輸送量22.4であった。	人口の多い2市を結んでいるため、郊外大型店等への潜在的需要は存在している。現状のルートはできるだけ維持しつつ、乗車の多く見込める時間帯を協議会等において検討していく。
	牟礼線	旅客の利便向上を図るため、長野駅発の最終時刻の繰り下げを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:34.3 に対して 実績輸送量32.5であった。	事業の継続、収益改善の観点から、貨客混載等を含め、協議会において、効率的なルート・サービスを検討し、路線の維持を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	野沢線	北陸新幹線飯山駅への乗り入れを行い、旅客の利便向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:43.4 に対して 実績輸送量42.4であった。	飯山駅開業に伴う旅客動向を注視し、利用客のニーズと運行時刻・ルートが適切かどうか協議会において、検討を図っていく。
	中野木島線	北陸新幹線飯山駅への乗り入れを行い、旅客の利便向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:24.6 に対して 実績輸送量18.6であった。	飯山駅開業に伴う旅客動向を注視し、利用客のニーズと運行時刻・ルートが適切かどうか協議会において、検討を図っていく。
	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅)	乗降調査データ、ICデータを活用し、今後の運行状況改善に向けて協議会と共に検討を行っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:18.4 に対して 実績輸送量17.6であった。	通勤・通学客の少ない昼間及び土休日の利用客の落ち込みが目立っている。需給に応じた運行本数を検討するとともに、昼間の時間帯の需要を喚起すべくルートの検討を協議会と連携しながら進めていく。
	屋代須坂線(須坂駅～松代駅)	乗降調査データ、ICデータを活用し、今後の運行状況改善に向けて協議会と共に検討を行っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:24.0 に対して 実績輸送量24.8であった。	通勤・通学客の少ない昼間及び土休日の利用客の落ち込みが目立っている。需給に応じた運行本数を検討するとともに、昼間の時間帯の需要を喚起すべくルートの検討を協議会と連携しながら進めていく。
アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府) ※ノンステップバス車両購入	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。平成27年3月にダイヤ改正を実施し、利便性が向上された。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量37.2 に対して、 実績輸送量39.4であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	高府線(善光寺大門～初引)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。平成27年3月にダイヤ改正を実施し、利便性が向上された。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量20.3 に対して、利用者が伸びなかったことから、 実績輸送量20.4であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	鬼無里線	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、市営バスとの乗継の接続を図るなど、ダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量45.5 に対して、 実績輸送量45.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	県道戸隠線	学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量41.8に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量40.2であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。平成27年3月にダイヤ改正を実施し、利便性が向上された。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量23.4に対して、実績輸送量31.9であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋・犀峡高校)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。平成27年3月にダイヤ改正を実施し、利便性が向上された。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量30.3に対して、実績輸送量31.9であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	山形線 ※ノンステップバス車両購入	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を実施するとともに、バリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1運行当りの目標利用者数19.1に対して、実績利用者数20.7であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	四賀線	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	1運行当りの目標利用者数31.0に対して、実績利用者数29.3であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	本線	沿線の茅野市や岡谷市で、時刻表を作成し、市民に配布するなど利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量37.8に対して、実績輸送量37.8であった。	利用旅客の減少が続く中、ダイヤ、運行系統の見直しも視野に入れ旅客ニーズにあった運行をし利用促進を図る。
千曲バス(株)	佐久上田線	26年10月より土日祝日の運休を実施して経費削減を図った。また、25年10月より実施している上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:15.0に対して実績輸送量18.7であった。	引き続き、経費削減に努めるとともに、バス存続に向けて地域への働きかけを実施する。
	中仙道線	JR佐久平駅及びコミュニティバスとの接続を考慮し、ダイヤの見直しを行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:40.0に対して実績輸送量46.9であった。	引き続き、JR佐久平駅への接続を考慮し、ダイヤの見直しを図る。また、バス存続に向けて地域への働きかけを実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千曲バス(株)	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和) ※ワンステップバス車両購入	減価償却費補助を活用して、大型車両(ワンステップ・スロープ付)を1台導入した。また、高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:65.0 に対して 利用者が伸びなかったことから実績輸送量50.3であった。	運賃低減バスの継続実施に向けて、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	鹿教湯線(丸子～下秋和)	26年10月より終発便を21時台に設定し利便性の向上を図った。また、高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:60.0 に対して 実績輸送量61.5であった。	運賃低減バスの継続実施に向けて、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	青木線	26年10月より終発便を21時台に設定し利便性の向上を図った。また、青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:60.0 に対して 実績輸送量70.5であった。	運賃低減バスの継続実施に向けて、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
上田バス(株)	真田線	真田地域公共交通利用促進協議会と連携し、時刻表を作成・配布した。また、夏休みキッズバスの配布などにより将来の利用者掘り起しを実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量18.8人 に対して 輸送量は15.3人であった。	バス乗り方教室の開催やチラシの発行による利用啓発を促す。
	菅平高原線 ※ワンステップバス車両購入	真田地域公共交通利用促進協議会と連携し、時刻表を作成・配布した。また沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施や複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量44.8人 に対して 輸送量は32.4人であった。	菅平観光協会と協力し、利用促進策を実施し、通年運行増便による利用者獲得を目指す。
	真田自治センター入口線	真田地域公共交通利用促進協議会と連携し、時刻表を作成・配布した。また、夏休みキッズバスの配布などにより将来の利用者掘り起しを実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量31.9人 に対して 輸送量は27.4人であった。	上田市と協力し、NHK大河ドラマの観光客取り込みを目指す。観光利用客に向け路線案内の充実を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
信南交通株	駒場線(中村経由)	主要バス停へのベンチ設置、結節バス停の改修を行い環境改善を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送量15.0人以上の目標に対し、38.2人となり目標を達成した。 1便平均乗車数10人以上の目標に対し、16.5人となり目標を達成した。	高校生の日曜日の部活動に配慮し、運行回数の増回を予定。
	駒場線(市立病院経由)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送量15.0人以上の目標に対し、23.1人となり目標を達成した。 1便平均乗車数13人以上の目標に対し、18.1人となり目標を達成した。	各高校新入生に対し、利用促進のチラシを配付予定。